

第2回福島県相双地域等の物流に関する協議会 物流に関する調査事業について（復興庁・物流業者を対象）

2019年2月19日
(株)富士通総研

ご報告項目

- I. 前回協議会(12/6) ご報告内容の振り返り**
- II. 「出会いの場」の開催（平成30年12月10日）について**
- III. 大手業者と地元業者の連携実現に向け、検討中の内容について**
- IV. 12市町村物流課題解決に向けた その他取り組み**

1. 復興庁事業の目的

福島浜通り地域等における物流課題※への対応のため、

「大手配送業者(以降：大手業者)」と「地元配送業者(以降：地元業者)」の連携による解決に着目し、連携を実現するために必要な情報収集等を実施する。

※「入荷貨物を物流事業者の拠点まで引き取りに行かなければならない」、
あるいは「出荷貨物の集荷時刻が早く、希望する時刻と合わない」などの荷主からの生の声

2. 目的達成に向けた進め方 全体像

【実態調査】

【大手・地元業者の具体的連携の検討】

①アンケート調査 前回（第1回）協議会でのご報告領域

目的

大手業者・地元業者の連携に向けた
「背景・課題」と、「ニーズ」を確認

※大手業者：送付 17社中 8社から回答

※地元業者：送付601社中 77社から回答

②「出会いの場」の開催

※福島浜通り地域等の物流に関わる様々な悩みを
持っている物流事業者に集まっておき、
連携に向けた「キッカケ」を創って頂く場

大手業者・地元業者の
組合せを洗出し

③大手業者・地元業者の 具体的連携に向けた取組み

マッチングした
大手業者・地元業者間で
連携に向けた具体的調整を展開

注：次回（第3回）協議会でのご報告内容
大手業者・地元業者の
連携に向けた
「課題」と「解決策」の洗出し

地元業者

〔認識している課題〕

ドライバー不足も要因となり、
集配できないエリアがある事、更には荷量が
少ない事による厳しい収益性を指摘

「エリア」の課題

例：大熊町・双葉町など応じられない地域がある

「サービス」の課題

例：ドライバーがおらず、荷主の要望に応えられない

「コスト」の課題

例：荷量が少なく収益性が悪い

〔大手業者との連携〕

77社のアンケート回答企業のうち
「13社」が大手業者との連携を希望

連携希望の内容

- ・12市町村の集配で連携したい
- ・幹線運行での、積合せ/往復運行で連携したい

注：連携を希望しなかった地元業者の声

- ・ドライバーがおらず、仕事が受けられない
- ・鉄道コンテナの集配のみで業態があわない

大手業者

〔認識している課題〕

地元業者と同様に、集配できないエリアがある事、
また時間指定などのサービスレベルが
低下している事も指摘

「エリア」の課題

例：12市町村すべてに定期配送をしていない

「サービス」の課題

例：時間指定等のサービスが低下している

「コスト」の課題

例：震災前と比べ、協力会社への委託費が割高

〔地元業者との連携〕

8社のアンケート回答企業のうち
「3社」が地元業者との連携を希望

連携希望の内容

- ・12市町村の集配を委託できる協力会社が欲しい
- ・幹線運行を委託できる協力会社が欲しい

注：連携を希望しなかった地元業者の声

- ・12市町村の配送は、仙台から実施。
福島ではなく、仙台の業者と連携したい

〔アンケート結果のアウトプット〕

- 今回の事業の「大手業者」と「地元業者」の連携の必要性が裏付け
 - 連携の可能性のある「大手業者・地元業者のマッチング(組合わせ)」
- を洗出し

Ⅱ.「出会いの場」の開催（平成30年12月10日）について

出会いの場とは？

大手業者と地元業者の連携の実現を目的に、アンケート調査と併行して、福島浜通り地域の物流に関わる様々な悩みを持っている物流事業者に集まっていただき、物流問題解決に向けた連携のための「キッカケ」を創っていただく場。

開催日時 : 平成30年12月10日(月) 13時～15時30分
主 催 : 復興庁・福島県トラック協会
開催場所 : 福島県トラック協会 白河の関トラックステーション

①参加者

- 大手業者：4社（5名）
- 地元業者：6社（10名）

合計 10社（15名）

注：当日は、福島相双復興推進機構様 2名も、オブザーバーとしてご参加

②進 行

- 復興庁様・福島県トラック協会様 開催挨拶

- 意見交換タイム その1

※参加申込書に記載頂いている連携希望内容を基に、「幹線連携」「集配連携」の2グループに分けて意見交換

- 意見交換タイム その2

※参加企業名簿を参考に、話したい企業の方と自由に意見交換

注：意見交換タイムは、復興庁様・富士通総研も同席

- 成立したマッチングの確認

「出会いの場」開催風景

主催者挨拶



福島県トラック協会
荒川様ご挨拶

意見交換タイム



成立したマッチングの確認



成立したマッチング・・・合計10組の出会い有り！

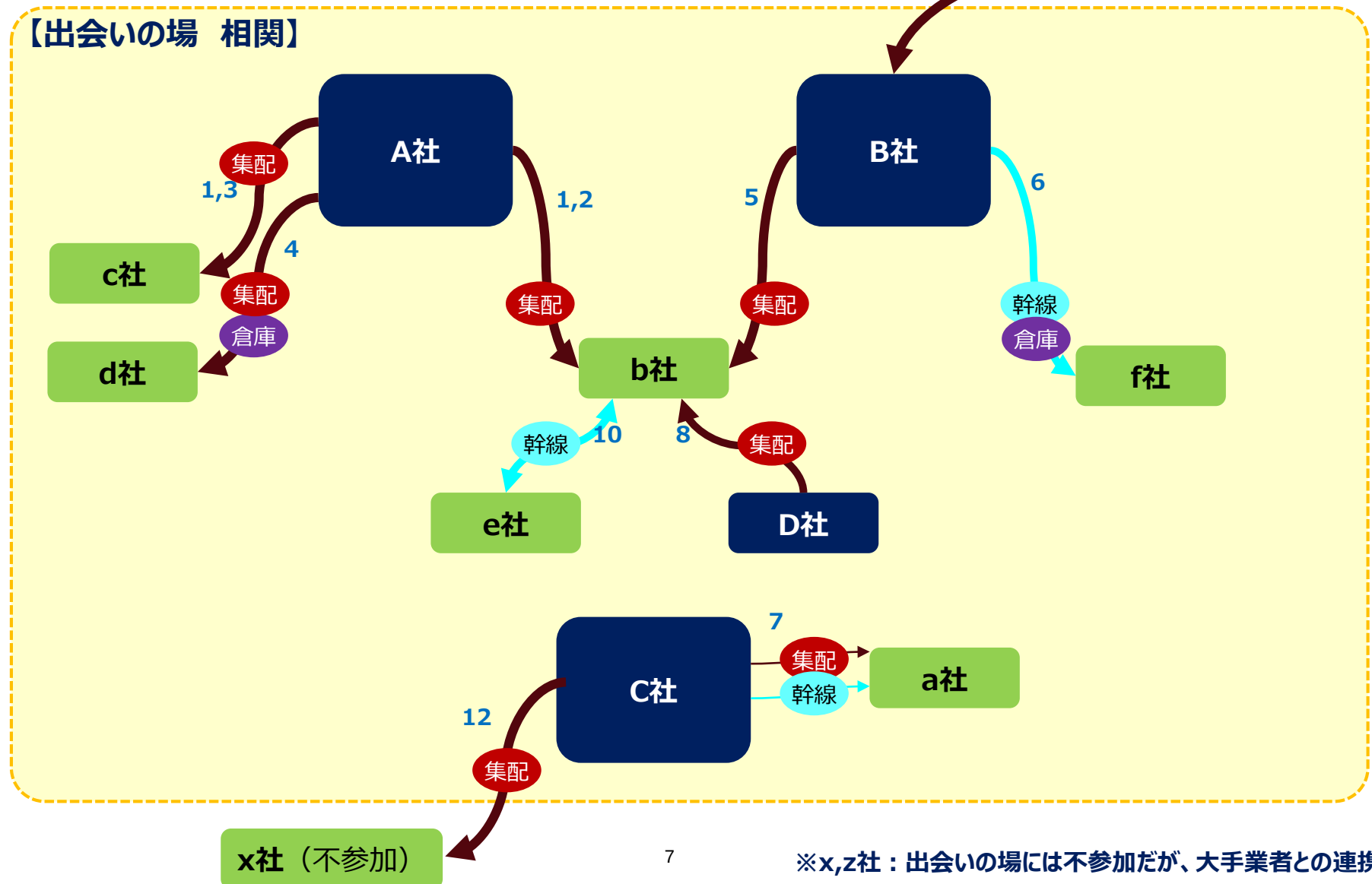
連携領域		大手業者	地元業者	出会いの場後の検討進捗	
集配で連携	1	□ A社	■ b社 ■ c社		A社様が、地元業者各社との連携に向け、青写真を作成中。 ※復興庁様・弊社で、1月に、A社様訪問/ヒアリング
	2		■ b社		
	3		■ c社		
	4		■ d社		
	5	□ B社	■ b社		B社様が、地元業者各社から見積り受領。社内検討中 ※復興庁様・弊社で、1月に、B社様訪問/ヒアリング
	6		■ f社		
	7	□ C社	■ a社		両社で打ち合わせ日程調整中
	8	□ D社	■ b社		見積もり提示に向け調整中
幹線で連携	9	□ C社	■ a社		C社から見積もり提示
	10		■ b社・e社 地元業者間の連携		e社が打ち合わせの打診済

更に・・・

出会いの場に出席できなかった地元業者の連携希望を、大手業者に配布。
連携に向けた可能性がある地元業者をノミネート。

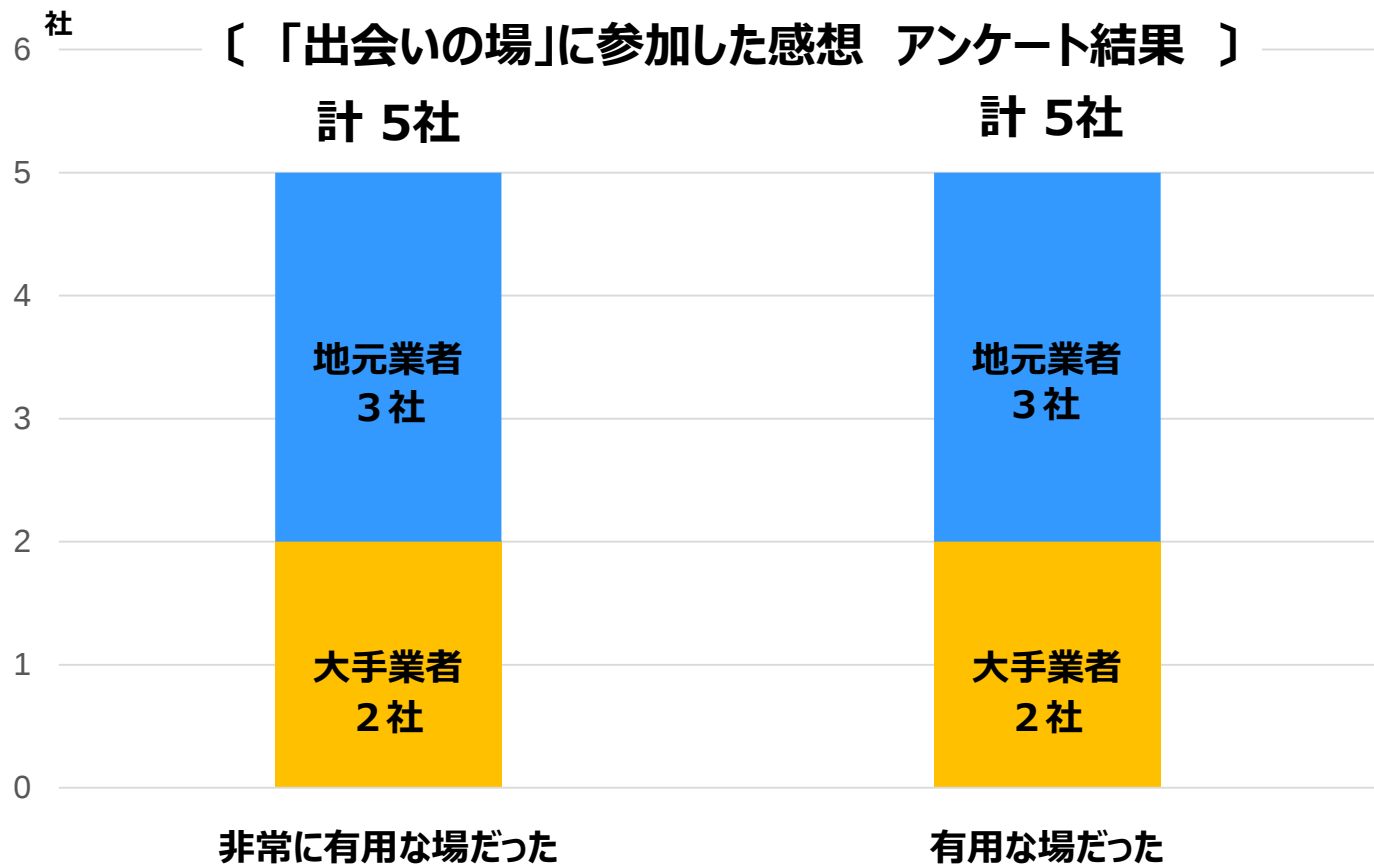
集配で連携	11	□ B社	■ Z社		Z社様の連携開始タイミングがB社様と合致せず 近々の連携検討着手は、見送り
	12	□ C社	■ X社 ₆		

見積もり金額で折り合いがつかず。



「出会いの場」 アンケート結果

参加業者に対して、「非常に有用な場だった」「有用な場だった」「あまり有用ではなかった」「有用ではなかった」の4段階で参加した感想を伺ったところ、**全ての業者から「非常に有用な場だった」、「有用な場だった」のいずれかの評価を得た。**



【「非常に有用な場だった」に係るコメント】

- ①今後の業務に繋がられる。
- ②相双地区共同配送に向け話し合いができた。
- ③共同配送ができそうである。
- ④お互いの強み・弱みが知れ、協力/共存していける事が分かった。

【有用な場だった」に係るコメント】

- ⑤他社の状況が聞けた
- ⑥情報共有ができた。
- ⑦地元業者を始め、県内外の同業者との連携も図れれば、良い。

A-その①：

大手業者 自社拠点発着の「委託協力会社」を増強

大手業者：いわき市に営業所を構える
大手特別積み合せ業者。
集配不可/配送日時指定不可エリアあり。

(広野町など)

12市町村物流課題解決に向け、
荷主企業に対する物流サービス向上を、
最大の解決課題と位置づけ、現在、取組み中。

地元業者：保有車両の空き時間帯(午前)に活用してもらい、
新規売上げ獲得とともに、復興に向けた貢献をしたい。

【連携内容】

- 地元業者の車両を大手業者が、チャーターとして傭車し、午前中集配車両として活用。
- 委託エリアは、日々の状況に応じ、双葉郡全域。



※その他特記事項※

地元業者の車両は、箱車。
現在、大手業者は、ウイング車で荷扱い作業をしており運用について、両社での十分な検討が必要。

A-その②：

大手業者・地元業者間のリレー輸送ネットワーク構築による集配サービスレベルの向上

大手業者：南相馬市に営業所を構える大手特別積み合せ業者。
営業所の立地的側面もあり、
十分な物流サービスを提供できない場合もあり。
物流サービス向上に向けて、現在、取組み中。

地元業者：上述の大手業者の南相馬市営業所と比べ、
より南部に自社拠点を保有。
本自社拠点の有効活用と、
車両活用の双方を視野に入れ、復興に向けた
貢献をしたい。



【連携内容】

- 大手業者 南相馬営業所から、
地元業者の自社拠点までの横持ち幹線便を運行。
- 大手業者の既存協力会社も含め、
地元業者の自社拠点を、12市町村集配ハブ拠点として
活用

※その他特記事項※

大手業者の南相馬営業所は、
同社の郡山・福島の2箇所の営業所から
幹線入荷をしている。

注：国内営業所から、南相馬営業所への
直納幹線はなし

場合によっては、本取組み実現に向け、
幹線ネットワークの直しも生じる事もある。

B 物流子会社の既存輸送ネットワークに組み込み。 地元業者との連携で、共同配送の仕組みを構築。

大手業者：いわき市に工場を構える**大手製造業の物流子会社**。本工場から、**製品を全国に出荷**。

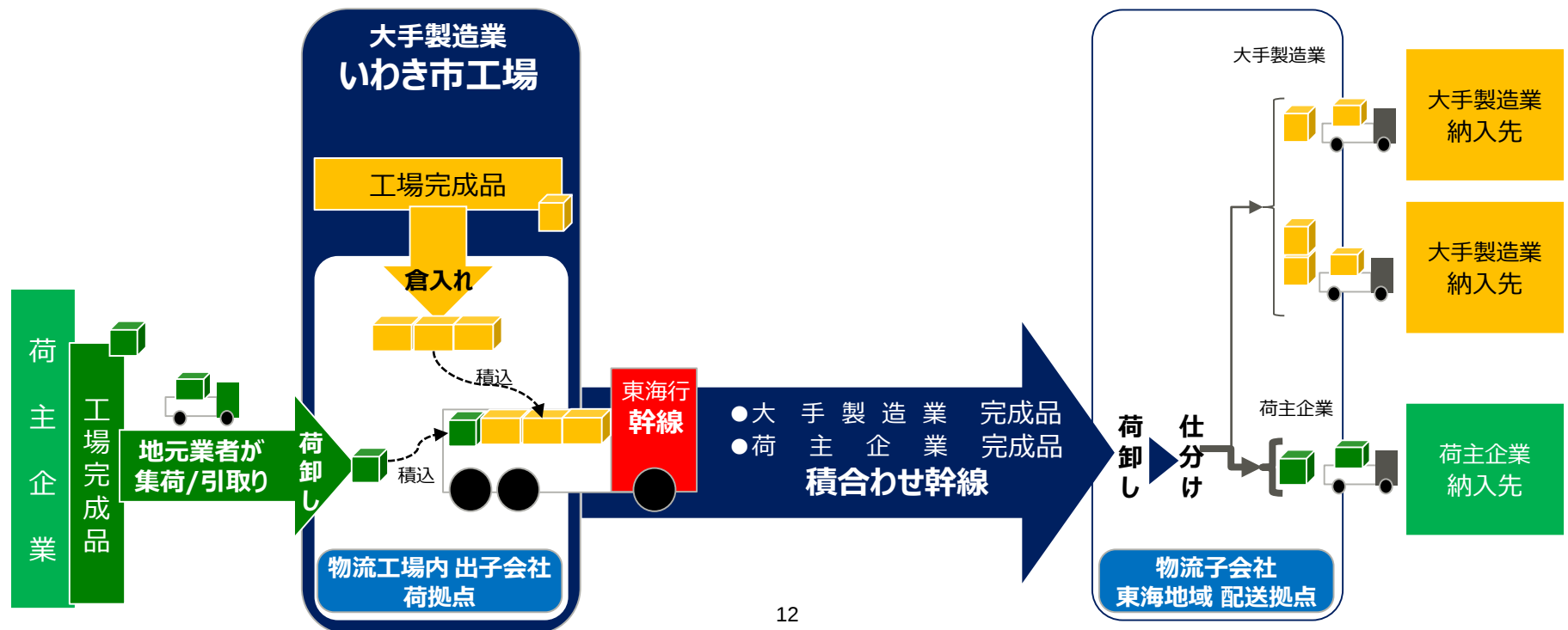
地元業者：上記物流子会社の**福島県内の配送を担う協力会社**。

12市町村荷主企業が抱える物流課題解決に向け、是非とも協力させて頂きたい。

⇒「東海地域への出荷に関する物流コスト削減」を緊急課題としている、とある「荷主企業」の困りごとを聞きつけ、
先ずは下図をご提案頂いた。

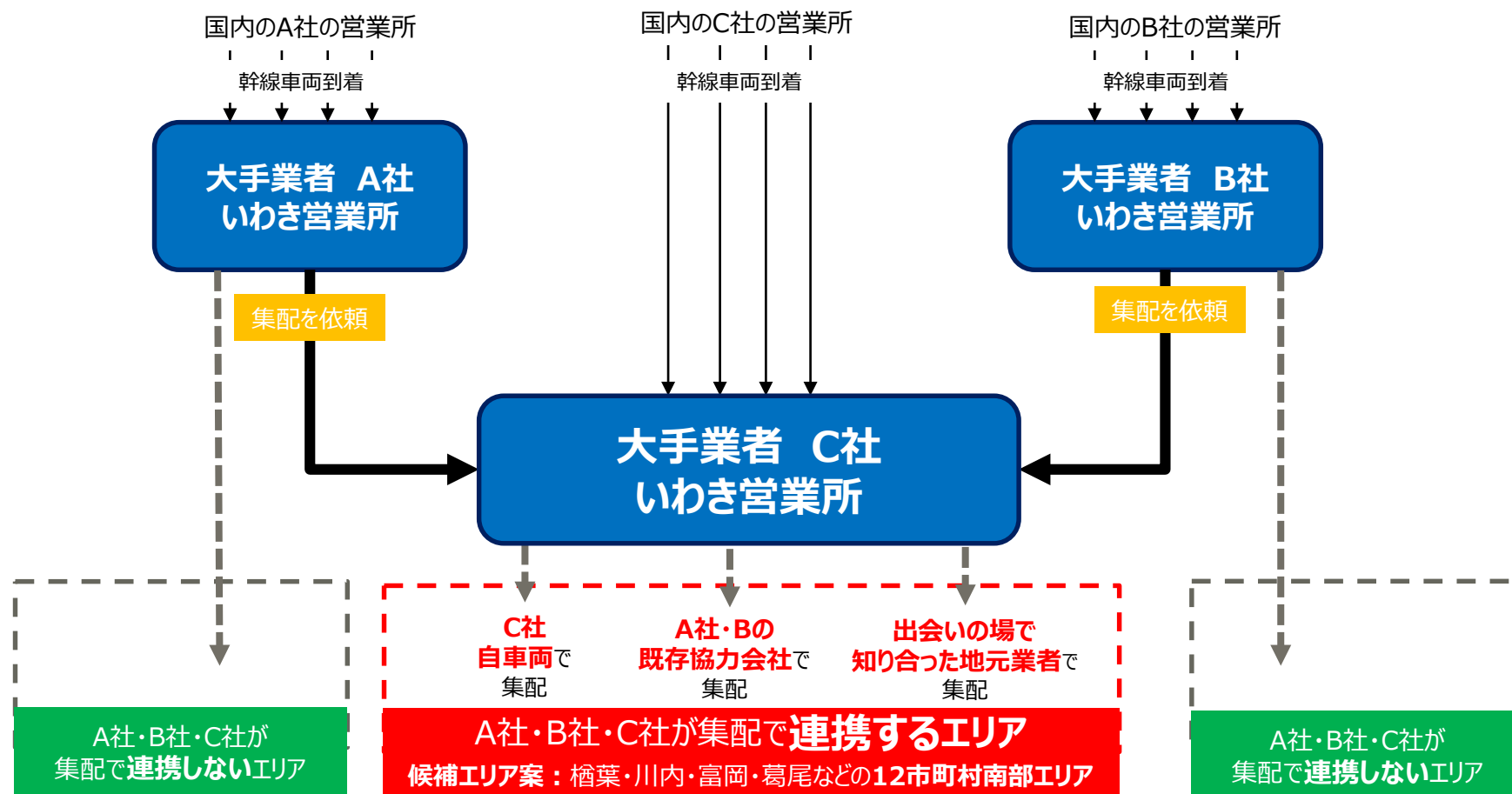
【連携内容】

- 物流子会社の東海向け定期幹線の空きスペースに、荷主企業の完成品を混載。
- 荷主企業への集荷は、福島県地元業者が対応。物流子会社の出荷拠点まで持ち込む。
- なお、東海地区の配送は、物流子会社の東海地域の協力会社が担当。



IV. 12市町村物流課題解決に向けた その他取り組み

基本思想： 荷量を、特定の手業者者に集約すれば、集配サービスレベルの向上は期待できる。



上図連携実現に向けては、料金収受や情報システム連携など、様々な側面の解決事項を時間をかけて検討する必要あり。
そこで、まずは大手業者が集まり、連携実現の“可能性”を検討する事が必要。